

# 柳川藩大城氏のルーツ考

市史編集顧問 大城美知信



【写真1】中世大木氏の氏神とされる大木八幡神社 (みやま市瀬高町大広園)



【写真2】宇都宮頼綱(大木主計頭)の勧請と記されている「大木八幡宮由来」

柳川藩の御家中に大城氏(おおき)がいます。その初代は九右衛門幸永で、立花宗茂再封のときに召し出され、元和8(1622)年に新知130石を拝領しています。

私も同姓であり、そのルーツには関心がありました。しかし、わが家は、幕末の三池郡大牟田村にいた私の高祖父の大城勇五郎の名が分かるのみで、柳川大城氏との関係も全く分かりません。

柳川大城氏のルーツは、蒲池氏の一族で、元は「大木」姓を称していました。「蒲池系図」では、遠祖宇都宮資綱の子政長が山門郡大木村(現みやま市瀬高町大広園)を領地にして、大木氏を称したとされています。戦国時代末期の柳川城主蒲池鎮並の家臣に、大木兵部少輔統光がいます。天正9(1581)年、下蒲池氏滅亡の後、統光は鍋島直茂に取り立てられて佐賀藩に仕えたようですが、弟の資永は田尻鑑種に従ったようです。この資永の子が、冒頭に挙げた九右衛門幸永です。彼が姓を大木から大城に改めたと「先祖書」は記しています。天文16(1547)年の「田尻親種豊後参府日記」には「大木監物」の名があるので、中世大木氏が存在していたのは確かです。

私は柳川大城氏のルーツや系譜に少し違った見方をしていきます。中世の筑後で大城氏といえば、草野氏一族の大城氏が有名です。柳川大城氏の系譜伝承

の中には、ひょっとすると草野系大城氏の要素が混在しているのではないかと考えています。

鎌倉時代から南北朝期の筑後には、在国司草野永平の一族に御井郡の大城村(現久留米市北野町)を領した大城氏がいました。「高良記紙背文書」の中に大城次郎永幸や大城又次郎入道などの存在を確認できます。また、南北朝期に南朝宮方に属し、菊池氏や黒木氏らと連帯して活躍した大城藤次は、北朝康永2(1343)年に中院侍従義定や菊池武茂と共に筑後の竹井城(現みやま市高田町竹飯)で拳兵し、2カ月にわたって籠城の末ついに陥落。これ以後、大城氏は歴史の表舞台からその消息を絶っています。

私はこのときの大城藤次やその親族が、竹井城からそう遠くない大木村辺りへ落ち延び、そこに土着したのではないかとこの可能性を想定しています。無論仮説であってそれを裏付ける証拠は今のところありません。ただ、そう考えるのにはいくつかの理由があります。一つは、柳川大城氏が資永、幸永、政永、常永と代々「永」を用いており、草野氏も永平、永幸、永基と「永」を継承していること。また大城九右衛門はなぜ大木をあえて大城に改姓したのかという点などです。これらは今後の検討課題として提起しておきます。

ひとを結ぶ。  
まちを結ぶ。  
地域おこし協力隊

column  
No.82

ファームステイしたカナダの広大な自然



## 海外での経験を生かし 新たな特産品開発を担当

7月から地域おこし協力隊に就任しました西濱美穂です。市役所の商工・ブランド振興課に所属して、柳川の食の新たな特産品づくりを担当します。これから市内のいろんな場所に顔を出しますので、見かけたときはお声かけいただけると嬉しいです。さて、今回は広報紙に初めての登場です。簡単に私のプロフィールを紹介します。

私は、東京生まれ東京育ちです。前職は通信系の会社で企業間の契約や支払いなどを12年ほど担当していました。その間、カナダのビクトリアという街でファームステイを1年ほど経験。料理が好きなので、カナダ滞在中にはレシピライターとして働くこともできました。これまでの経験を生かして、柳川の新しい特産品づくりのお手伝いできればと思っています。柳川に来てさっそく、有明海で獲れるシタビラメの一種「クチゾコ」の大きさに驚きました。また、市内で収穫される「ヒシ」をまだ見たことがないので、どんな食材なのか楽しみです。これから柳川をもっと勉強していくので、よろしくお願いします。



New Face

西濱 美穂 (45歳)

【プロフィール】市商工・ブランド振興課に所属。食の新たな特産品づくりを担当

10周年記念ポスター(左)と全国を飛び回った物産展



## Last Message これからも柳川の 魅力の語り手として

8月末で、地域おこし協力隊として3年間の任期満了を迎えます。在任中は多くの人に本当にお世話になりました。私の主なミッションは、柳川の特産品のPR。コロナ禍前は、全国さまざまな場所での物産展など、数々のイベントに参加することができました。大勢の人と触れ合いながら、柳川の魅力が伝えられることが本当に楽しく、とてもやり甲斐を感じていました。どれも貴重な経験でしたが、その中でも特に印象深かったのは、柳川ブランド10周年記念ポスターの製作です。全ての認定事業者へ足を運び、一人一人と話しをしながら、撮影を進めました。後で撮影した画像を確認すると、画像に事業者の人柄や仕事への誇りが写り込んでいるように感じ感激しました。それは、柳川の魅力を作り上げ、支えている人たちの存在に気付いた瞬間でした。

おこし隊卒業後も、引き続き柳川に定住する予定です。微力ですが、これからも一市民として、柳川の魅力を語り継いでいこうと思っています。



堤 圭 (54歳)

【プロフィール】市商工・ブランド振興課に所属。柳川特産品の販売・PRなどを担当